

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒も教職員も生き生きと学び続ける学校

1. 総ての生徒が進路希望を実現するために、学力の向上を図るとともに将来を見据えたキャリア形成を段階的に支援する
2. 授業・部活動・学校行事等すべての教育活動を通じて、たくましく、しなやかにグローバル社会を生き抜く力を育む
3. 国際教養科を設置する高等学校として、英語教育・国際理解教育の充実を図る

2 中期的目標

1 英語教育、国際理解教育の一層の充実

(1) 国際教養科の取組を発展させ、両学科ともに英語教育の充実を図る

- ア. 四技能を総合的に伸ばす指導方法を研究するとともに、ネイティブ英語教員を最大限に生かせる英語教育体制を構築する
- イ. 英語検定の準2級以上の合格をめざす・英語学力調査スコアのレベル4以上をめざす・TOEIC受検等資格取得に挑戦させる
- ウ. 各種の行事を英語学習の動機付けに活用すると共に、英語を発信する機会を増やし、その力を強化する

(2) さまざまな国際理解教育の機会づくり

- ア. 幼小中・他校との連携を視野に入れた英語・国際理解関連行事の推進
- イ. 海外姉妹校との交流機会を深めると共に、グローバルマインドを持つ生徒を育てる
- ウ. 国際教養科のこれまでの取組を土台にして、学校全体で国際理解教育を推進する

※H31年度までに、「学校教育自己診断」の「英語教育・国際理解教育」(H27/28:91%)で満足度90%台維持、また、英語検定準2級以上の合格率を40%に(H27:33%)
英語学力調査スコアのレベルを国際教養科5以上20%(H28:18%)、普通科4以上(次年度より実施)をめざす

2 すべての生徒の進路希望実現とキャリア形成支援

(1) わかる授業の実践・学習への動機づけ等の取組による学力の向上

- ア. 三年間で身につけさせたい学力をもとに、計画的・効果的な授業を行うとともに、自学自習の習慣を定着させる
- イ. 授業アンケートの結果を踏まえた改善を進め、互見授業・研修・研究授業等を通じて組織的な授業力向上の取組を行う
- ウ. ICT活用等による教材の活用などを教科を超えて共有できる体制を作る

(2) キャリア形成の段階的支援

- ア. 学校としての進路指導戦略を確立し、指導の目線合わせを行い、効果的な進路指導を行う
- イ. 「花園キャリアプラン」に基づき、すべての教育活動を通じて、考える力・発信する力・行動する力・協働する力を育み、最後までやり抜く力を身につけさせる
- ウ. 探究的な活動を通じて、未知なるものに果敢に挑戦し、意見の交換・調整を通して仲間とともに課題を解決する力をつけ、自尊感情を高め、予測不能な21世紀社会を生き抜く力を育む (平成29年度学校経営推進費)

(3) 社会性の育成と学習環境の整備

- ア. 挨拶の励行などのマナーや遅刻防止・TPOに合わせた服装等の指導を推進し、社会性を育む
- イ. 授業の「場」を意識し、より集中して学習できる環境を維持する
- ウ. 校内美化を推進し、落ち着いて学習に取り組むための清潔、快適な学習環境を保つ
- エ. 施設の改善や教科指導などの教育活動に生かせるよう、限られた予算を効率よく使い、節減に努める

※H31年度までに「学校教育自己診断」の「授業への集中」(H27/28 思う:生徒29%/37%)を40%台に、「家庭での学習習慣」(H27/28:43%/50%)を50%台後半を目標とする。また、「進路意識の確立」(H27/28:77%/76%)で、80%台をめざし、最終の決定進路への生徒の満足度「とても満足」(H27/28:45.7%/47.5%)の90%を目標とする。さらに、国公立と難関私大(関関同立レベル以上)の合格者数100をめざす。(H27/28:38/62) また、探究的な活動を継続的に行い定着させ、卒業時の生徒アンケート「探究学習を通じて成長できた」の肯定率を3年後には、90%をめざす。

3 行事や部活動等の多様な活動の充実

(1) 部活動の活性化

- ア. 部活動を通じて、コミュニケーション力、調整力を養い、良好な人間関係を構築する力を育む
- イ. 学校見学会等を含めた中学生や地域との交流を充実させる

(2) 生徒会活動の充実

- ア. 学校行事の活性化を通じて生徒の自尊感情を高めるとともに、自主・自律の力を育む
- イ. ボランティア活動や国際交流、地域との交流を通じて豊かな心を育てる

※H31年度までに「学校教育自己診断」の「生徒会活動」(H27/28:76%/80%)で、積極的参加80%以上をめざし、「部活動が活発」(H27/28:88%/91%)で90%台維持、また、「友好的な人間関係の構築」(H27/28:思う52%/54%)で60%台を目標とする。

4 学校力の向上

(1) 組織で課題に取り組む体制づくり

- ア. 運営委員会を中心に、課題の全体化、情報の共有、活発な議論を推進し、教職員一人ひとりが学校経営参画意識を持つ

(2) 広報活動の充実

- ア. 学校の魅力を発信するWebページの充実と、説明会の充実や中学校訪問、「花園PRESS」の活動など学校全体で推進する

※H31年度までに「学校教育自己診断」の「教職員の情報共有」(H28:51%)を60%、「各組織の連携」(H28:40%)を50%台、「中学生へ情報発信」(H28:思う18%)を20%台を目標とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・生徒・保護者ともに肯定率が非常に高いなか、最下位が「家庭学習の習慣がついている」（いずれも50%）である。ここ数年の課題として取り組んでおり、次年度は「到達度テスト」を導入し基礎学力の定着をはかるためにも、自学自習の習慣（家庭学習）の確立に取り組みたい。</p> <p>・教職員の結果としては、「組織の連携」が51%と11ポイント上昇した。来年度は首席も変わり新しい体制になるので、運営委員を中心に連携を強めていきたい。</p>	<p>第1回6月30日実施 平成29年度学校経営計画について ・進路実績もあがり、多くの取組を進めてきているので、今年度も着実に積み上げて行ってほしい。</p> <p>第2回11月21日 学校経営計画の進捗状況・授業見学 ・多岐に渡る取り組みを着実に進めてきている。 ・「わかる授業」をめざして、生徒に興味を持たせる工夫が必要である。</p> <p>第3回2月9日 今年度の成果と次年度の課題 ・「HANAZONO 探究プロジェクト」の新しい取組が生徒により効果を与えている。さらに工夫をして、円滑に実施できる体制づくりを期待したい。</p>

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 英語教育、国際理解教育の一層の充実	<p>(1) 英語教育の充実 ア. 四技能を総合的に伸ばす指導方法の研究と英語指導体制の構築 イ. 資格取得</p> <p>ウ. 英語発信の機会の増加</p> <p>(2) さまざまな国際理解教育の機会づくり ア. 他校種との連携 イ. 姉妹校との交流を深める</p>	<p>(1) 英語教育の充実 ア. 四技能を総合的に伸ばす指導方法の研究 ・研究授業や他校の実践を学ぶ機会の増加 イ. 資格取得 ・指導体制の維持、英検対策講座実施 ・普通科1・2年にも英語学力調査実施</p> <p>ウ. 英語発信の機会の増加 ・学習成果発表の充実</p> <p>(2) さまざまな国際理解教育の機会づくり ア. 他校種との連携 ・地域の学校との連携の機会づくり イ. 姉妹校との交流を深める ・交流の内容の充実</p>	<p>(1) 英語教育の充実 ア. 四技能を総合的に伸ばす指導方法の研究 ・研究授業や実践の共有・研修等 年5回 イ. 資格取得 ・英検対策講座等 10回以上維持(H28:11回) ・英検準2級以上の合格率:40%後半維持(H28:48%) ・英語学力調査・英検を効果的に生かした指導体制構築 ・英語学力調査国際教養科レベル5以上18%維持(H28:18%) ウ. 英語発信の機会の増加 ・学習成果発表の機会 年6回維持 ・英語合宿(国内)の企画・実施をめざす</p> <p>(2) さまざまな国際理解教育の機会づくり ア. 他校種との連携・連携の機会 年2回以上 イ. 姉妹校との交流 ・姉妹校等とのWeb交流 再実施をめざす ・姉妹校相互交流や外国高校生の受入れ(H28 4回維持) ・「花園イングリッシュチャレンジ」への参加者数(H28:20人維持)</p>	<p>(1) 7四技能指導に関するWG含め年8回実施(◎) WGを置くことで教科の議論の効率が上がった。 イ・英検対策講座等 11回(○) ・準2級以上合格率 47.9%(○) ・学力調査分析会2回実施(◎) 1・2年全クラスで実施した結果の分析会を今年度初めて2回実施し、弱点を把握し、指導に活かした。 ・学力調査 国教科 19%(◎) 次年度に向けて四技能の検定(特にスピーキング)への対策強化を行う ウ・成果発表 年7回実施(◎) ・国内英語合宿実施 13名参加 満足度90%(◎) よい施設だが、費用がかかるため、来年度は実施しない方向。 (2) ア 他校種との連携 2回 特に花園小学校での生徒による出前授業は、成果大(◎) 初めての取組にも関わらず、生徒中心に短時間で工夫をし、小学生とのコミュニケーションも活発に行えた。 イ・Web交流 2月実施(○) 先方の教員の事情で実施が遅れているが、担当者が根気よく交渉し実施 ・交流や受け入れ 年6回(◎) 生徒が積極的にコミュニケーションをとる姿勢が見受けられた ・「花園イングリッシュチャレンジ」への参加者数 20人(◎) 参加する中学生の意欲もあがってきている。</p>

2 すべての生徒の進路希望とキャリア形成支援	<p>(1)学力の向上</p> <p>ア. 自学自習の習慣の定着</p> <p>イ. 組織的な授業力向上</p> <p>ウ ICT の活用等の共有</p>	<p>(1)学力の向上</p> <p>ア. 自学自習の習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒につけたい力とその方法を教科で話し合い、全体で共有し、学力向上に向けた取組（朝学、補講習、定期考査、実力テストや模試の活用等も含む）を効果的に行う <p>イ. 組織的な授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 互見授業・研究授業を促進し、課題を共有する。 授業の「めあて」「振り返り」を実践し、双方向の授業を心がける <p>ウ ICT の活用等の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの実践を共有し、授業の工夫について気軽に話し合える体制をつくる 	<p>(1)学力の向上</p> <p>ア. 自学自習の習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業力・学力向上の研修（年3回） 朝学の校内体制づくりと内容の充実 学校教育自己診断の肯定率「家庭での学習習慣」50%台(H28:50%)「進路意識の確立」78%（H28:76%）に向上 <p>イ. 組織的な授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 互見授業全教員の参加 公開授業各教科で実施 各教科で授業観察シートの作成 学校教育自己診断の「授業に集中」生徒「そう思う」40%前後(H28:37%)をめざす <p>ウ ICT の活用等の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践や課題の共有 基本的な活用の講習会の実施：1回 実践や課題の共有：1回 	<p>(1)</p> <p>ア・授業力・学力向上の研修 3回実施 自学自習の習慣定着に向けて現状分析(◎) 教科の取り組み強化のために、次年度到達度テストを導入し、その結果を活かして、英数国の基礎学力の定着を自学自習の促進により図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学の校内体制 学年団で取り組む体制を構築 (◎) <p>学校教育自己診断の肯定率「家庭での学習習慣」50%(H28:50%) (○) 「進路意識の確立」78% (H28:76%) (◎)</p> <p>2年3学期に第一希望を意識させる取組が成果をあげている。</p> <p>イ・互見授業全教員参加 公開授業全教科実施 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業観察シート作成 (○) <p>今後、「めあて」「振り返り」の実践をさらに深める</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の肯定率「授業に集中」生徒40% (◎) (H28:37%) <p>ウ・講習会実施 1回</p> <ul style="list-style-type: none"> 共有 1回 (○)
	<p>(2)キャリア形成の段階的支援</p> <p>ア. 学校としての進路指導戦略の確立</p> <p>イ. 探究的な取組の導入</p> <p>(3)社会性の育成と学習環境の整備</p> <p>ア. 社会性の育成</p> <p>イ. 校内美化の推進</p>	<p>(2)キャリア形成の段階的支援</p> <p>ア. 学校としての進路指導戦略の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年主導ではなく、進路指導部としての指導計画の確立と学校全体での目線合わせ講習体制の確立 指定校推薦の指導方法の改良 模試・実力考査等の活用方法の研究 <p>イ. 探究的な取組の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領を見据えた新たな取組へのチャレンジ <p>(3)社会性の育成と学習環境の整備</p> <p>ア. 社会性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行等マナーの徹底 遅刻防止の徹底 <p>イ. 校内美化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内美化の取組強化 クリーンアップキャンペーンの実施 	<p>(2)キャリア形成の段階的支援</p> <p>ア. 学校としての進路指導戦略の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学進学についての職員研修 1回 面接指導・小論文指導等の指導法の研修(2回実施) 進路指導の「三年間の流れ」(生徒用・保護者用・教員用)を完成 生徒アンケート「決定した進路への満足度」55%(H28:47.5%) <p>イ. 探究的な取組の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の「総合的な学習の時間」で「ゲストエデュケーション」(企業研究)を実施し、2・3年『HANAZONO 進路探究プログラム』の策定・試行 参加生徒数100名以上 プレゼンテーション・ポスターセッション等で発表会実施 生徒アンケート「進路決定に役立った」70%「探究学習を通じて成長した」60% (肯定率) <p>(3)社会性の育成と学習環境の整備</p> <p>ア. 社会性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動年2回実施 遅刻防止週間2回、遅刻数の減少(前年比5%減) <p>イ. 校内美化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健委員の点検各学期1回維持 クリーンアップキャンペーンの毎月実施と全体化 	<p>(2)</p> <p>ア・大学進学についての教員研修1回実施 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接・小論文指導研修 2回実施 (◎) 新たな試みを次年度はさらに発展させたい。 進路指導の「三年間の流れ」(○) 今後、探究の取組を加え、さらにバージョンアップ 「決定した進路への満足度」47.1%(H28:47.5%) (△) <p>大学の入学定員厳格化の影響が大きかった。ただ、関関同立や近大・龍谷は合格者増で、健闘している。</p> <p>イ・1年ゲスト 17回シリーズ実施 校内発表会実施 さらに、1グループが全国大会出場決定(◎) 『進路探究プログラム』6・11月実施 参加生徒のべ321名(◎) 発表の機会3回 (◎)</p> <p>予想以上に生徒の反応がよかった。</p> <p>生徒アンケート 肯定率「進路決定に役立った」77% 「探究学習を通じて成長した」88%(◎) 生徒にとっては新鮮で有意義な取組となった。</p> <p>(3)</p> <p>ア・挨拶運動 2回実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻防止週間 3回実施(◎) <p>遅刻数2812回(前年2795回)3年生は減少したが、1・2年生が増。(△)年々順調に減ってきていたのがついにストップ。次年度は強化したい。</p> <p>イ・保健委員会点検各学期1回実施 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> クリーンアップキャンペーンの毎月実施と全体化(○)

<p>3 行事や部活動等の多様な活動の充実</p>	<p>(1) 部活動の活性化 ア. コミュニケーション力・調整力の育成</p> <p>イ. 学校見学会を含めた中学生等との部活動交流の充実</p> <p>(2) 生徒会活動の充実 ア. 学校行事の活性化</p> <p>イ. ボランティア活動や地域との交流等</p>	<p>(1) 部活動の活性化 ア. コミュニケーション力・調整力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験入部期間の改善などを通して入部率の向上を図る。また部長・マネージャー会議を通じて、学校行事のいろいろな場面でコミュニケーション力・調整力を育成する <p>イ. 学校見学会を含めた中学生等との部活動交流の充実</p> <p>(2) 生徒会活動の充実 ア. 学校行事の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 花高祭の改革の継続と定着 HRの充実による行事参加意識の強化 <p>イ. ボランティア活動や地域との交流等</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の推進 地域との連携の促進 2019 ラグビー-W杯に向けた地域活性化プロジェクトに参加 	<p>(1) 部活動の活性化 ア. コミュニケーション力・調整力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の入部率：66%以上(H28:66.4%) 部長・マネージャー会議の実施 月1回 <p>イ. 学校見学会を含めた中学生等との部活動交流の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生参加数：300人維持(H28:300人) <p>(2) 生徒会活動の充実 ア. 学校行事の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断「行事への積極的参加」70% 台後半～80%維持(H28:80%) <p>イ. ボランティア活動や地域との交流等</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の機会の増加：2回以上 様々な連携活動により多くの生徒の参加を促す：生徒会、クラブを含め5部以上維持 2019 ラグビー-W杯に向けた地域活性化プロジェクト：参加生徒数20名以上 	<p>(1) ア. 入部率：70% (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部長・マネージャー会議実施 (○) <p>イ. 中学生参加数：340人 (◎)</p> <p>(2) ア. 自己診断「行事への積極的参加」84%(H28:80%) (◎) 生徒の活躍の場面を広げている。</p> <p>イ. ボランティア活動機会増加：3回 (◎) 地域との連携進む</p> <ul style="list-style-type: none"> 連携活動への参加クラブ数の増加 生徒会とクラブ9部(◎) 2019 ラグビー-W杯に向けた地域活性化プロジェクト：参加生徒数68名 (◎) 次年度に向け、コアになる生徒を育てている。
<p>4. 学校力の向上</p>	<p>(1) 組織で課題に取り組む体制づくり ア. 学校経営参画意識の向上</p> <p>(2) 広報活動の充実 ア. 学校全体での推進</p>	<p>(1) 組織で課題に取り組む体制づくり ア. 学校経営参画意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会を中心に、課題の全体化、情報の共有を図り、PTやWGを駆使し、迅速な課題の解決を図る 首席を中心として学年間・学年と分掌等の連携強化・情報共有促進 <p>(2) 広報活動の充実 ア. 学校全体での推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の魅力を発信する「花園 PRESS」による広報の強化 ブログによる生徒会活動、部活動の情報発信 広報委員会の内容充実 	<p>(1) 組織で課題に取り組む体制づくり ア. 学校経営参画意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 分掌のルーティーン業務の円滑実施 学校教育自己診断「職員間の情報共有」50%台維持(H28:51%)「組織の連携」H28より向上をめざす(H28:40%) <p>(2) 広報活動の充実 ア. 学校全体での推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「花園 PRESS」の活動評価度：80%台維持(H28:88%) 生徒会ブログ更新：各学期1回以上維持 広報委員会 効果的な広報の戦略を検討 広報活動への教員の参加：のべ100人以上を維持(H28:107人) 	<p>(1) ア. 手順の確認・マニュアルの作成等 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断「職員間の情報共有」50%維持(H28:51%) 職員朝礼を復活(◎) 「組織の連携」51%(H28:40%) コミュニケーションがとれてきている(◎) さらに向上すべく、運営委員が中心となって連携を進めていく。 <p>(2) ア. 活動評価度 91%(◎) 積極的な生徒が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会ブログ更新 各学期複数回に増加 (◎) 広報委員会 説明会で生徒による説明を増やす(◎) 教員の参加 のべ 110人(◎)